

北海道に適する秋まきのパン用品種

# キタノカオリ



ホクシン

キタノカオリ



キタノカオリ (左)

ホクシン (中)

ホロシリコムギ (右)

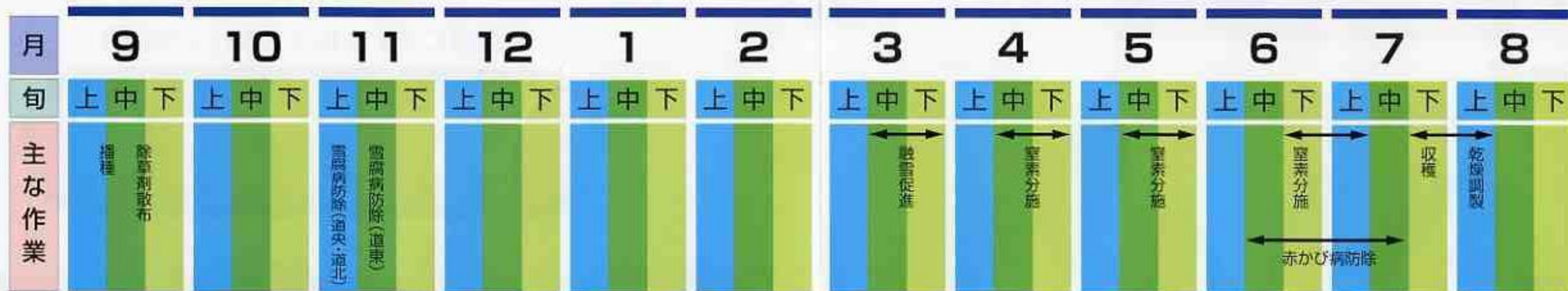
## 主要特性

1. 製パン適性が優れる
2. 赤さび病、うどんこ病抵抗性が優れる
3. 耐倒伏性が優れる

独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構

監修 農林水産省 農林水産技術会議事務局





地帯に応じた適期播種により越冬前の生育確保

適期播種を行い、越冬前の生育量を確保するため、主茎葉数が8枚以上になるようにする。そのため、道央・道北部では9月上旬～中旬、中でも越冬条件が厳しい地帯では上旬までに、また、道東部でも中旬までに播種を行う。キタノカオリはホクシンに比べ初期生育が劣る傾向にあるので、適期播種を励行する。

播種量は播種期により調整

播種量は255粒/m<sup>2</sup>であるが、適期内でも遅れる場合は2割程度多めにする。

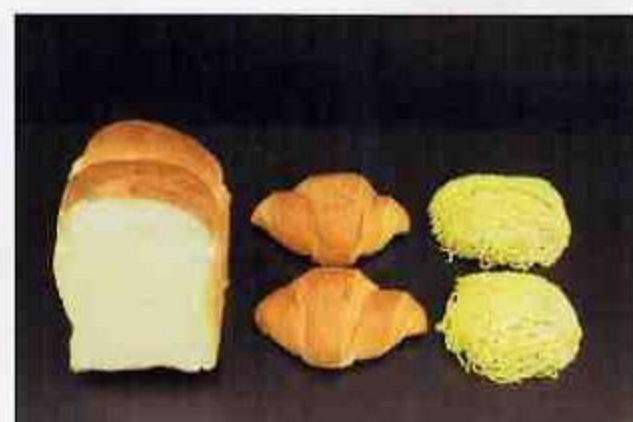
施肥量は品種特性・品質を考慮

キタノカオリはホクシン等とは異なりパン用品種なので、子実の蛋白含量が高くなるように肥培管理に努める。

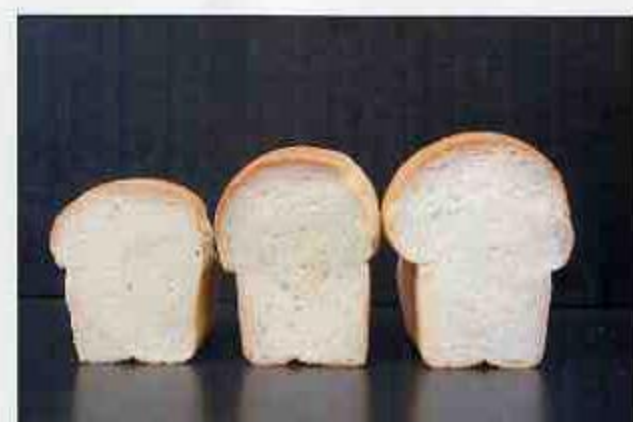
起生期の窒素施与は収量性の向上に、出穂期以降の追肥は子実の高蛋白化につながる。

キタノカオリの成熟期はホクシンよりも遅いので、過剰な後期窒素施与による更なる成熟期の遅れに注意する。

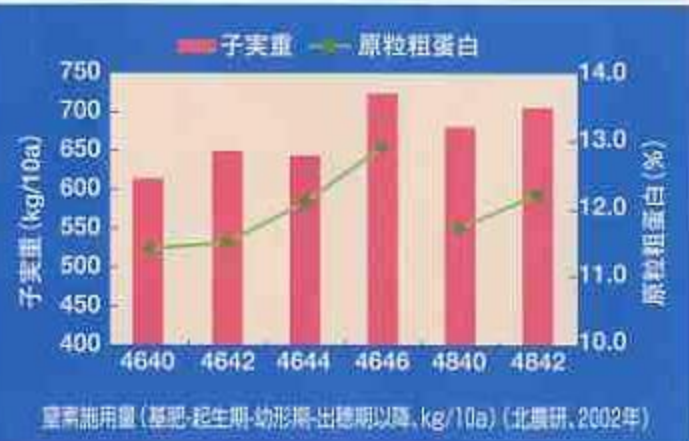
キタノカオリの製パン性を十分に発揮させるためには、小麦粉蛋白量で11%以上、子実蛋白量では12%以上を目標にする。



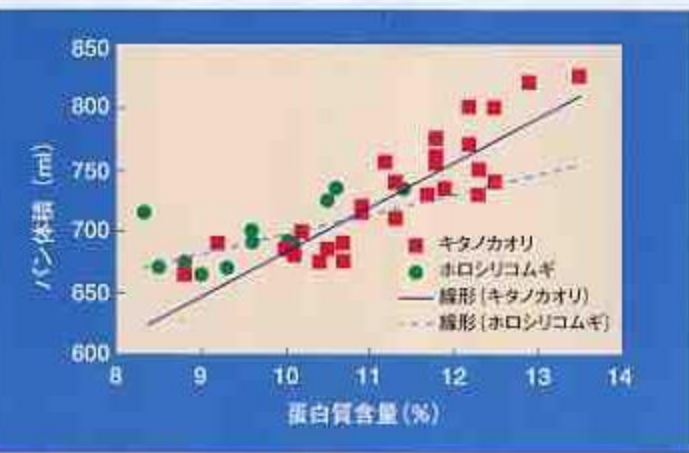
キタノカオリのパンと中華麵



左からホロシリコムギ、キタノカオリ、LCW



窒素施用量(基肥・起生期・幼形期・出穂期以降, kg/10a) (北農研, 2002年)



●キタノカオリの特性 (芽室町)

品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	子実重 (kg/10a)	1リットル重 (g)	千粒重 (g)	粒質
キタノカオリ	6.12	7.25	75	9.0	604	586	812	41.3	硝子質
ホクシン	6.06	7.20	83	8.4	621	607	796	38.1	粒状質

品種名	耐寒性	耐雪性	赤さび病抵抗性	うどんこ病抵抗性	赤かび病抵抗性	小麦縮萎縮病抵抗性	耐倒伏性	穂発芽性
キタノカオリ	中	やや強	かなり強	強	中	弱	強	中
ホクシン	中	やや強	やや弱	やや強	やや弱	弱	強	中

●キタノカオリの品質特性 (芽室町)

品種名	製粉歩留 (%)	ミリングスコア	60%粉蛋白含量 (%)	60%粉灰分含量 (%)	アミログラム最高粘度 (Bu)	ファリノグラム吸水率 (%)	ファリノグラムVV
キタノカオリ	71.5	83.8	11.4	0.44	458	66.4	97
ホクシン	68.6	82.4	10.3	0.41	1115	53.5	48

品種名	吸水性評価 (20)	作業性評価 (20)	パンの官能評価			総合評価 <sup>1)</sup> (100)
			外観 (30)	内相 (70)	合計 (100)	
キタノカオリ	17.3	16.2	25.7	58.7	84.4	84.2
ハルユタカ <sup>2)</sup>	16.1	15.8	24.4	56.7	81.1	80.5

注1) 総合評価=吸水性評価+作業性評価+パンの官能評価\*0.6  
2) ハルユタカは北海道産

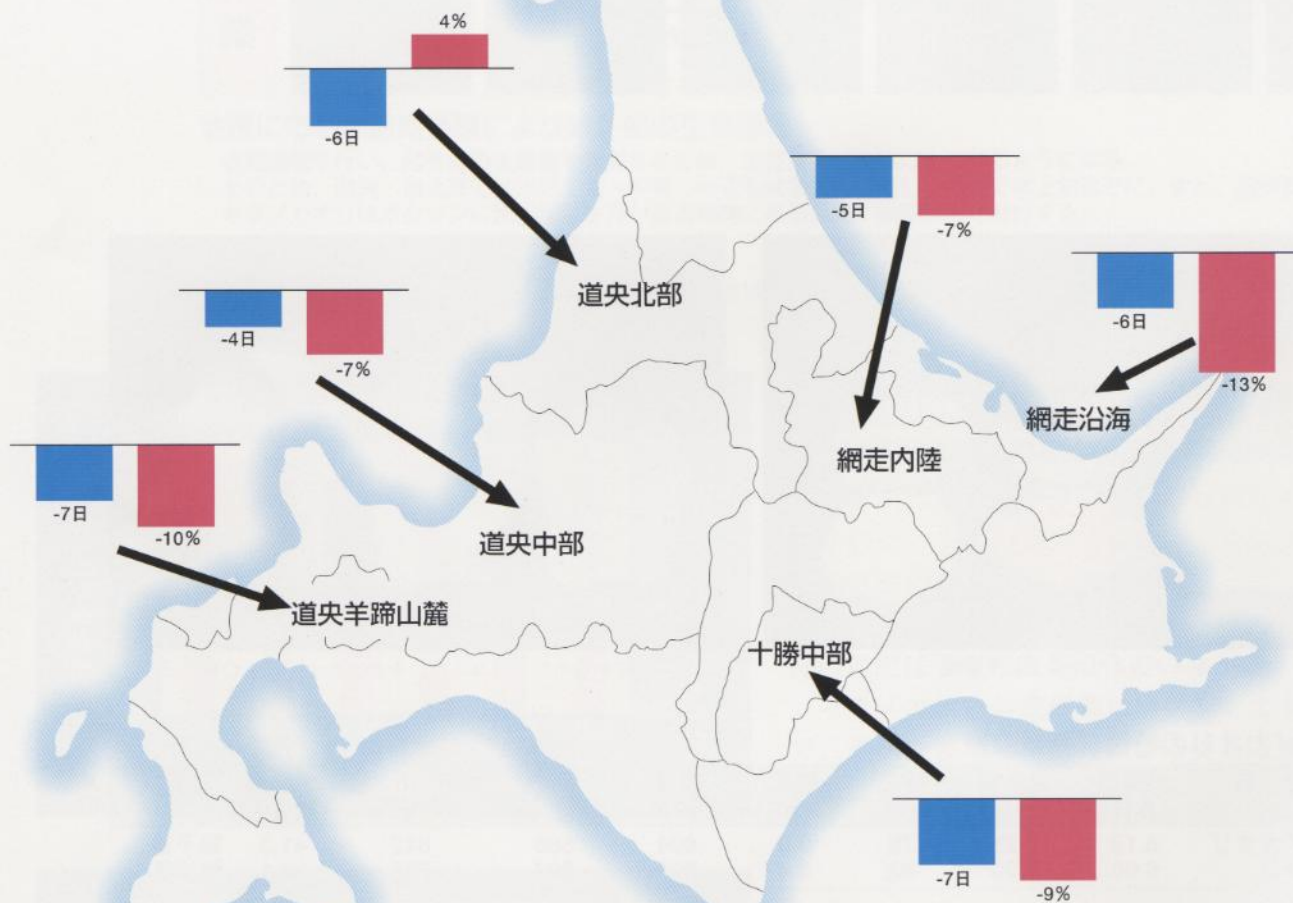
その他栽培をする上での留意事項

小麦縮萎縮病には弱いので、すでにホクシンで発生が認められている圃場では栽培しない。多雪地帯での冬損程度はホクシンよりやや多い傾向にあるので、適切な管理に努める。赤かび病には必ずしも強くないので、防除の徹底を図る。穂発芽性は必ずしも十分でないので、適期収穫を励行する。



# キタノカオリの栽培適地

全道の秋まき小麦栽培地帯



注) 本図はめん用小麦の肥培管理で行った試験結果である。パン用の肥培管理を行うことにより、多収、高蛋白を得ることができる。



## 標準品種との比較

成熟期はプラスに行くほど早いことを、収量はプラスに行くほど高いことを示す。

お問い合わせは

農業・生物系特定産業技術研究機構

北海道農業研究センター 畑作研究部麦育種研究室

〒082-0071 北海道河西郡芽室町新生

Tel.0155-62-2721